

|                        |           |                     |
|------------------------|-----------|---------------------|
| <b>「カンボジアの絹織物から学ぶ」</b> |           | 荒井 智子<br>神奈川県立氷取沢高校 |
| 担当教科：家庭科               | 実践教科：家庭科  | 時間数：2 時間            |
| 対象学年：1 学年              | 対象人数：39 名 |                     |

### 指導案

#### 実践の目的

家庭科教育に開発教育の視点を反映させることで、よりリアリティある授業が可能になることを教員が確認すること。

「必要な素材を選択しながら生活している消費者にとって、生産者及び生産の現場を視野に入れた消費行動が、生活の安全を守るため、また、グローバル化された消費社会の中で生活していくために大切であることを、生徒が気づき考えること。

をふまえて、家庭科教育と開発教育とのつながりをより多くの家庭科教員に理解してもらうこと。

#### 授業の構成

| 時限 | テーマ・ねらい  | 方法・内容   | 使用教材   |
|----|--|---|--|
| 1  | <p>テーマ：<br/>「カンボジアの絹織物から学ぶ」</p> <p>ねらい：<br/>絹織物の生産工程を理解する。<br/>「フェアトレード」の意味と意義を理解することで、生産者の立場を配慮できる消費者の在り方について考える。</p> | <p>(1)「絹織物(マフラー)」の価格について最初の発問。(クロマーもあわせて呈示)</p> <p>(2)「価格構成の項目」を質問し、板書。<br/>例)人件費、材料費、運送費、施設設備費、広告宣伝費、マージン…</p> <p>(3)写真(スライド)を使って絹織物の生産工程について説明する。</p> <p>(4)「3枚の写真」から現在の村の生活状況を読みとることを指示する。</p>   | <p>(1)絹織物(マフラー)</p> <p>(2)市販クロマー</p> <p>(3)写真(P・P)</p> <p>(4)個人ワークシート</p> <p>(5)グループワークシート</p> <p>(6)「3枚の写真」</p>                     |
| 2  |  | <p>(5)「3枚の写真」について解説。<br/>・安定した生活<br/>・児童労働はない<br/>・人体や環境に安全</p> <p>(6)「絹織物(マフラー)」の価格についての二度目の発問。あわせて「価格構成の項目」のうち、ウエイトが大きい順にランキングする指示をだす。</p> <p>(7)発表内容から「フェアトレード」の考え方を示唆し、説明・板書する</p> <p>(8)マフラーの価格構成を示す。</p> <p>(9)コーヒーのフェアトレード例や「フェアトレード」マークについて説明。</p> <p>(10)「絹織物(マフラー)」の購入価格の報告と「ふりかえり」の記入の指示</p> | <p>(7)「絹織物(マフラー)」の価格の内訳を示す資料</p> <p>(8)一般市販とフェアトレードの各コーヒー豆の価格の内訳を示す資料</p> <p>(9)「フェアトレード」マーク</p> <p>(10)「フェアトレード」マークが付いた実物のコーヒー豆</p> |

## 授業の詳細

### 本授業の位置づけ

「家庭基礎」衣生活領域

- 1～2時間目 繊維の種類と特徴(「繊維の燃焼実験」)
- 3～4時間目 絹織物(生産の工程と「フェアトレード」)・・・<本授業>
- 5～6時間目 新素材の理解と商品開発

### 本授業(2時間)の流れ

- (1)「絹織物(マフラー)」の価格について最初の発問。(クロマーもあわせて呈示)

<教師の働きかけ>

カンボジアで購入した「絹織物(マフラー)」を紹介。「私にとっては少し高価な買い物だったがどうしても購入しなかった」旨を伝えた。(すぐに「いくらだった?」という質問が返ってきた。やはり商品の価格については興味あることを確認)改めて、この商品の価格について、グループで相談し発表することを伝えた。カンボジアの人々が日常的に活用している「クロマー」とその価格(1ドル)も紹介した。

<生徒の取り組み>

「東南アジアの物価の安さ」「自分の買い物経験」「荒井が高いと感じる価格の相場」「クロマーとの比較」等々を手がかりにグループで相談し、グループワークシートに記入後、発表。105円～10000円とかなり開きがあった。

- (2)「価格構成の項目」を質問し、板書。

<教師の働きかけ>

一般的に、モノの価格を決める際、考慮される項目としてあげられるものについて発問。

<生徒の取り組み>

社会科などの今までの学習の知識から次のようなことを個々で答えた。

「人件費、材料費、運送費、施設設備費、広告宣伝費、マージン、税金」(板書)

- (3)写真(スライド)を使って絹織物の生産工程について説明する。

<教師の働きかけ>

約20枚の現地の写真をスライドに編集し、解説を加えながら見せた。編集にあたって、蚕から取れる繭そして生糸から絹織物への工程が明確にわかるように配慮した。その工程を個人ワークシートで再確認することで知識の定着を諮った。また、この絹織物の村(IKTT)の成り立ちについても解説を加えた。

<生徒の取り組み>

個人ワークシートに記入しながら、スライドを視聴。

- (4)「3枚の写真」から現在の村の生活状況を読みとることを指示する。

<教師の働きかけ>

写真(スライド)によって絹織物の生産工程は確認できたので、次は村で生活する人々の生活の様子を「3枚の写真」を手がかりに想像し、発表することを伝えた。(グループ活動)

<生徒の取り組み>

「生活が貧しそう(靴をはいていない、電気やガスが通っていない、食事の内容が寂しい、等)」「遠くの学校にまで通っていきそう」「子どもが桑の葉を採りにいこうだ」「男性の姿が見えないのは、町に出稼ぎに行っているのでは・・・」「髪がつつやして健康そう」等の意見がでた。

(5)「3枚の写真」について解説

<教師の働きかけ>

「3枚の写真」について次のような解説を加え、この写真で確認できた「安定した生活 ・児童労働はない ・人体や環境に安全」を板書した。

「3枚の写真」とその解説



この村では、一つの家族が生活するために1ヶ月およそ100ドルが必要である。

クメール織の製造・販売に関わっている人は約300人、この人たちの平均収入は約50ドル(もちろん仕事の内容や技術の高さで差がある)。家族がみんなでこの労働に携われれば、裕福とはいえないが安定した生活ができる。

この写真は朝食の風景、家族の誰かが出稼ぎにいくことなく、揃って生活できている。



この男の子は朝、登校途中。学校はこの村の中にある。

クメール織の製造・販売に関わっている人は約300人のうち、子どもの頃、全く学校へ通った経験のない人が3割、小学校へ入学はしたが卒業できなかった人が4割、小学校は卒業した人が3割。

自分たちの子どもを学校へ通わせることができることはうれしく思っている。

児童に労働させることはない。



母親としては、職場に幼い自分の子どもを連れて来られることは安心。

確かに子育て中の母親の仕事量は減るが、その時期が過ぎれば再び仕事量を増えるし、身に付いた技術も活かせる。長い目でみれば大きなロスではない。

加熱用の燃料はバナナの幹である。燃やした後の灰は糸の染色の際、染料に加えて用いる。バナナはすべてを使い尽くす無駄のない植物。

クメール織の生産の過程に用いる原料や材料はすべて天然素材でそれに携わる人間にも環境

## にも安全。

- (6)「絹織物(マフラー)」の価格についての二度目の発問。あわせて「価格構成の項目」のうち、ウエイトが大きい順にランキングする指示をだす。

### <教師の働きかけ>

写真(スライド)、「3枚の写真」とその解説を手がかりに、再度、設定価格について発問した。今回は生産の現場や生産者の生活を配慮した価格設定が考えられることを期待したい。あわせて、ランキングの手法も用いることにより、生産者への配慮を浮き彫りにさせたいと考えた。そしてその「生産者への配慮」が「フェアトレード」の考え方につながることに気付かせていきたいと考えた。

### <生徒の取り組み>

グループの代表者がグループの意見を発表。全てのグループが、初回より高い価格設定をした。更に価格構成項目についてのランキングでも「人件費」を上位にあげたグループがほとんどだった。その他の価格構成項目についても一つ一つ吟味している様子がみられた。また、「3枚の写真」の解説の際に示した平均月収や労働者数などからマフラーの価格を割り出そうとしているグループもあった。



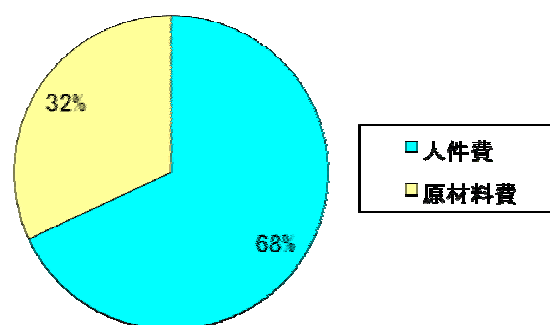
- (7)発表内容から「フェアトレード」の考え方を示唆し、説明・板書する。(教科書p.163)

### <教師の働きかけ>

再度の価格設定にあたり、価格構成項目のランキングで「人件費」を上位にあげたことを、生産者の生活重視とする考え方の一つのあらわれととらえたい。そして、その考え方につながる貿易の形として、「フェアトレード」を示した。そして、これを今日の授業のキーワードとして位置づけた。フェアトレードの解説として、「公平な貿易のことで、先進国と途上国間の格差をなくすことをその目的とする」をあげ、さらに、FLO基準等にあげられているフェアトレードを特徴づける3点を「3つのポイント」としてあげた。この「3つのポイント」がいずれも、IKTTの村では実現されていることについても確認した。

また、先進国を「消費者」、途上国を「生産者」と置き換えたとき、国内生産物を大切に考える「地産地消」の考え方にもつながることも確認した。

- (8)マフラーの価格構成をスライドで示す。

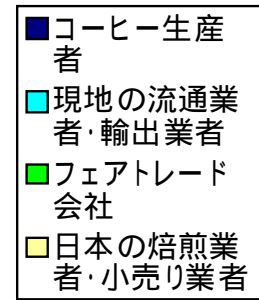
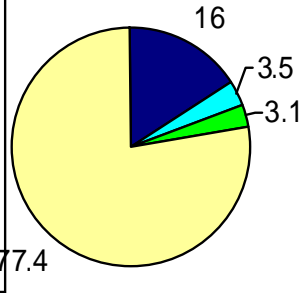
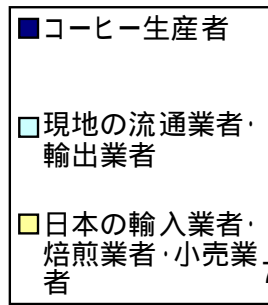
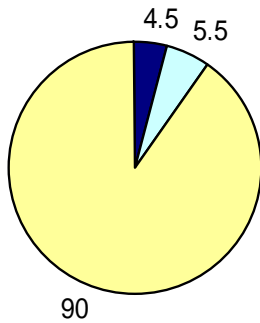


<クメール織マフラー> 価格設定の内訳

(9)コーヒーのフェアトレード例や「フェアトレード」マークについて説明。

< 普通のコーヒー豆の価格構成 >

< フェアトレードコーヒー豆の価格構成 >



(10)「絹織物(マフラー)」の購入価格の報告と「ふりかえり」の記入の指示

< 個人ワークシート「4. ふりかえり 今日授業を振り返り、消費者として心掛けたいことをまとめてみよう。」の記述内容。授業内容が正確に理解でき、自分なりの考えが持てたと思われる生徒の記述を掲載。 >

私達が買うことによって生産者の生活を守っているんだなと思ったら消費者として責任もあるんだなと思った。

今回の授業を受けて、安いからという理由だけでは買ってはいけないと思いました。

地域によっては、生産者が生きるために設定している値段もあると理解した。

消費者としての立場や生産者の立場などを考えたことがなかったが、この授業をうけて、少しでも考えられるようになれたらいいなと思った。

値段が高い物はいい原料を使っているのかと思っていたが、人が丁寧に作ったもので値段が高いのもあると知った。

今回の授業で発展途上国の悩みというか先進国の都合でふりまわして、いつまでたっても豊かになれないようにしているのははだめな事だし、むしろ先進国が助けなければいけないだろうと思った。

買う自分のメリットだけでなく、相手側にはどんなメリットが在るのか考え、自分が納得した商品を買おうと思いました。

価格をねぎることは消費者としてはしたいことだけど、ねぎるときは、むやみにするのではなく、商品の材料や人件費を考えた上でやりたいと思った。

フェアトレードになっている物を買うようにしていけば、生産者と消費者の間で良い関係がつけれると思う。

ただ安ければいいのではなく、売る側の考えも受け入れないと市場が小さくなってしまいう可能性があるんで、消費者と生産・売る側との両方が納得できるような価格を常に考えられるようにしたいと思いました。

外国で物を作っている人の環境の貧しさにとても驚きました。発展途上国に支援しているのは国民の税金ではあるが、実際に関与しているのは政治家の人たちで、自分たちは直接関与してなかったけれど、フェアトレードという制度を知って、自分たちがフェアトレード商品を買うことで発展途上国の支援ができると知って嬉しいです。買うことでほんの少しだけれど国際貢献ができると知れてよかった。



## 成果と課題

「実践の目的」の観点よりふりかえります。

< 家庭科教育に開発教育の視点を反映させることで、よりリアリティある授業が可能となることを教員が確認すること。 >

本時の授業は、今夏、訪問したカンボジアのIKTTで活動の様子を見学後、おみやげ用のマフラーを購入する際、「(値段が)結構、高いな…。だけど、やっぱり買いたい。」と率直に思った私自身の思いを授業にしてみようと計画した。教材研究を進めれば進めるほど、理解しにくい点が出てきて、改めてカンボジア(外国)と日本との直接比較の難しさを感じた。これこそが、国際理解といえるのではないかと思った。

授業では、現地で撮影した写真とそれを裏付けるための情報(現地でうかがった話、書籍からの知識、帰国後のメールによる情報)を活用した。特に開発教育で紹介された手法の「3枚の写真」は、是非、活用したい手法だったので取り入れた。私は、「写真から村の生活状況を推測してみよう」という提起の仕方をしたが、生徒には、もう少し細部にわたる観察を期待したかった。そのためには、「3枚の写真」から物語をつくるという活用の方が深まったかもしれない。

生徒への発問は、「マフラーの価格」からスタートし、最後にはマフラーの価格を構成する「人件費」の在り方に注目させる流れを作ったが、マフラーの本当の価格を先に示して、その価格構成項目を考えさせる流れの方が、生徒にはわかりやすかったかもしれない。(授業後の研究協議において、他の家庭科教員から提案)

授業全体をとおして、豊富な教材(写真、実物等)と参加型の授業方法により、生徒が活躍できる展開が可能であることを実感した。

現在、私達が外国からの多くの輸入品に支えられた生活しているからには、相手国の実情について、もっと理解を深めていけるような家庭科教育が重要であると考えた。

< 「必要な素材を選択しながら生活している消費者にとって、生産者及び生産の現場を視野に入れた消費行動が、生活の安全を守るため、また、グローバル化された消費社会の中で生活していくために大切であること」を生徒が気づき考えること。 >

まず、授業での問題提起に対して、生徒は概ね関心をもって取り組むことができた。

個人ワークシートの「ふりかえり」の記述においても、「生産者に対する消費者としての責任」、「値段先行の商品選択への反省」、「商品のむこう側にいる生産者の再確認」、「フェアトレードの国際貢献としての意義」等々の意見が述べられており、授業の目的は達成できたのではないかと考える。

また、同じ記述の欄に、「民間の人達に任せておくのではなく、もっと国(カンボジア)が関わるべき」という主旨の意見があった。その後の授業において、20年前のカンボジアでおきたクメール・ルージュ時

代を含む内戦からその後の復興について説明をし、国力の違い等にも話は及ぶことができ、他の生徒も熱心に考えていた。

個人ワークシートの「ふりかえり 1:あなたがよく購入するモノや身の回りのモノで、生産者のことが気にかかるモノとしてどんなものがあるか？」では、具体的に、「100円ショップ」の商品やチェーン店の「牛丼」「衣類」をあげる生徒が多く、他の生活の場面に普遍化させて考えることができたようだ。

< \_\_\_\_\_ をふまえて、家庭科教育と開発教育とのつながりをより多くの家庭科教員に理解してもらうこと。 >

以前より、私は家庭科という立場から「開発教育」を眺めていて、「是非、家庭科の中に開発教育の視点を取り入れたい。」「取り入れることによって、これだけグローバル化した私達の(生徒の)生活を題材にして、より新鮮でリアリティをもった課題提起が展開ができるはずだ」と考えていた。従って、今回の公開授業に神奈川県高等学校教科研究会家庭部会授業研究委員会から5名の家庭科教員の方々が見学し、研究協議会では貴重な意見をいただけたことを大変うれしく思っている。是非、今回の授業をたたき台にして、他の題材についても開発教育を活用した教材づくりがすすんでいくことをいけたらと思っている。

なお、この授業については、来年度神奈川県高等学校教科研究会家庭部会研究大会でも報告させていただき、より多くの家庭科教員に開発教育の活用を紹介したいと思う。

#### 参考資料

「カンボジア絹緋の世界～アンコールの森によみがえる村～」 森本喜久男著(NHKブックス、2008年)

「日本のフェアトレード～世界を変える希望の貿易～」 長坂寿久編著(明石書店、2008年)  
朝日新聞「フェアトレードって何？」(2010,10,30 夕刊)

「コーヒー危機～作られる貧困～」オックスファム・インターナショナル、日本フェアトレード委員会訳(筑波書房)

<グループワークシート>

## 想像される生活状況

---

|        | 1回目 | 2回目 |
|--------|-----|-----|
| 設定した価格 | 円   | 円   |

価格を構成する項目のランキング（割合が大きい順）



1年組 班：(名前 )

<個人ワークシート>

## <衣生活領域> 絹織物

(教科書p.114,163)

### 1, 「絹織物の生産工程」の確認 (パワーポイントを見て)

- 1) 絹織物の原料は蚕(かいこ)から採れる(あ )。色はカンボジアのは黄色だったが、日本では(い )が一般的。
- 2) (あ )を煮て、(う )をとり、(え )に紡ぐ。
- 3) (え )を染める前に、染めたくない部分には別の糸で括る。括るときに使う糸は、日本では(お )を使うが、カンボジアでは(か )を使う。
- 4) (え )を染める。
- 5) 染めた(え )を織って(き )に仕上げる。  
その他、気づいたこと

### 2, 生活状況: 「3枚の写真から」 ……どんなことが想像できるだろうか?

・  
・  
・  
・

### 3, ( ):

3つのポイント:

その他の例:

### 4, ふりかえり

- 1: あなたがよく購入するモノや身の回りのモノで、生産者のことが気にかかるモノとしてどんなものがあるか? また、それは、どういう点が気にかかるのか? 下に記入しよう。

外国からの輸入品以外のものも含めて考えよう。

( ):

( ):

( ):

- 2: 今日の授業を振り返り、消費者として心掛けたいことをまとめてみよう。